

東海沖の黒潮流路の南下について

黒潮は、現在東海沖で離岸して流れています。今後、さらに南下し、大きく離岸した状態が継続する見込みです。

黒潮は、東シナ海を北上して九州の南方から太平洋に入り、日本の南岸に沿って流れる世界有数の強い流れの海流です。

人工衛星や観測船等のデータを用いた気象庁の解析では、黒潮の流路は、現在、東海沖で離岸し、北緯 32 度付近まで南下しています（図 1-1、図 1-2、図 2-1）。黒潮流路の北側には冷水域がみられます（図 2-2）。

気象庁の数値予測結果によると、黒潮の流路は東海沖でさらに南下し（図 3-1）、大きく離岸した状態が今後 2 か月程度は継続する見込みです（図 4-1）。南下した流路の内側には冷水域が継続してみられ（図 3-2、図 4-2）、東海地方の沿岸では 8 月いっぱいには西向きの流れが見込まれます（図 3-1）。黒潮が北緯 32 度を超えて南下する流路が継続するのは 4 年ぶりとなります。今後、黒潮が潮岬で離岸し、北緯 32 度以南まで南下する流路が安定して続くと、2005 年 8 月以来の大蛇行となります。今後も黒潮流路の変動を注意深く監視を行っていきます。

本海域を航行する船舶や漁業を行う船舶は、黒潮が接岸した流路をとっている状況とは異なっていることにご注意ください。また、東海地方の沿岸の西向きの流れに伴い潮位が高くなる可能性がありますので、沿岸の低地では潮位の変化にご注意ください。台風や低気圧が接近した場合は、さらに潮位が高くなりますので、より一層の注意が必要です。地元气象台から発表される高潮警報・注意報や潮位情報に留意してください。

なお、気象庁ホームページの「海洋の健康診断表」では、海水温、海流の状況や 1 か月予報を発表しています。また、これらの実況データは毎日更新していますのであわせてご利用ください。

（海洋の健康診断表 URL）

<http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/index.html>

本件に関する問合せ先：気象庁 地球環境・海洋部 海洋気象情報室
03-3212-8341（内線 5166）

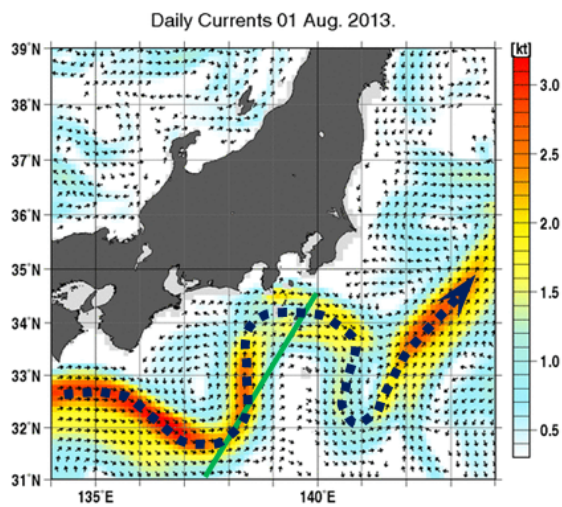


図 1-1 8 月 1 日の海流分布図 (単位 : 1 ノット*)

色は流れの強さを表し、赤色は強い流れを示しています。流速 0.2 ノット以上の流れを矢印で描画し、矢印の向きは海流の向きを示しています。

緑のラインは、同日に気象庁海洋気象観測船「凌風丸」が観測した航路、太い点線は黒潮の流路を示しています。海流分布図と凌風丸の観測データ

(図 1-2) はよく一致しており、ともに東海沖で北緯 32 度付近まで、強い流れがみられます。

*1 ノット=約 0.5m/s

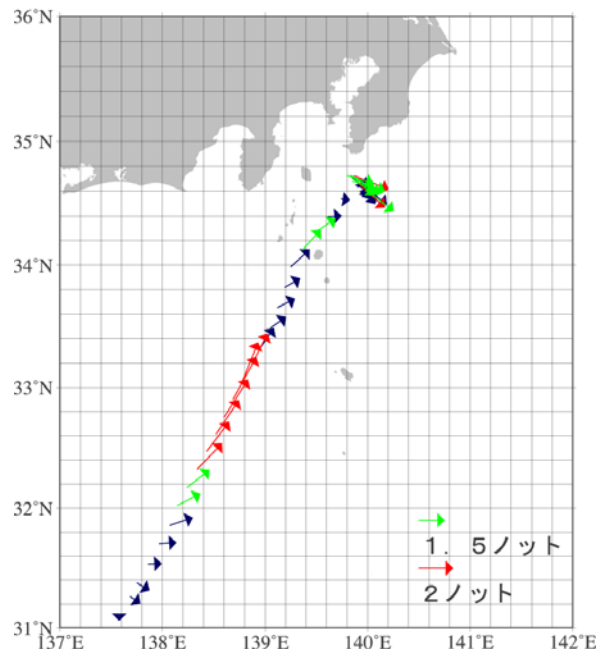
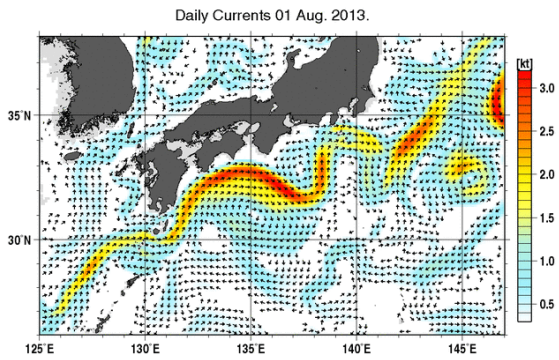


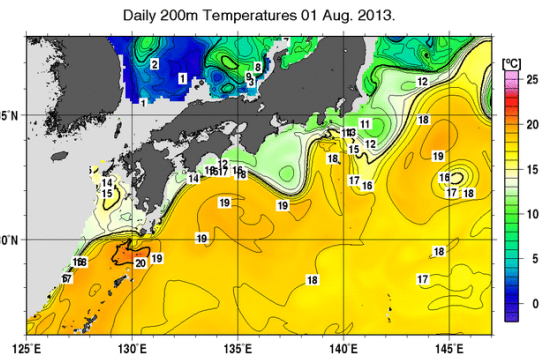
図 1-2 8 月 1 日に気象庁海洋気象観測船「凌風丸」が観測した海流

赤い矢印は 2 ノット以上、緑の矢印は 1.5 ノット以上 2 ノット未満、青い矢印は 1.5 ノット未満の流速を示しています。



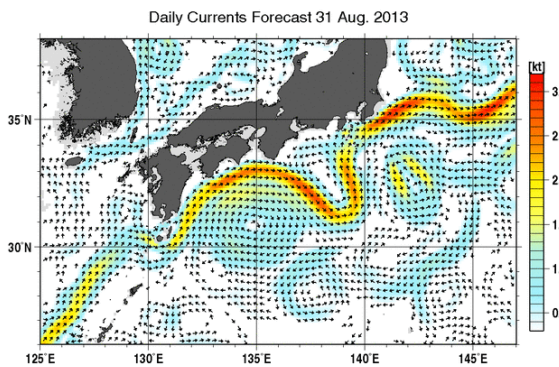
実況：8月1日

図 2-1 深さ 50m の海流分布図 (ノット)



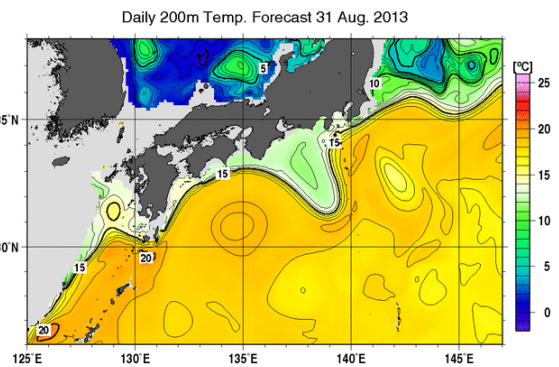
実況：8月1日

図 2-2 深さ 200m の水温分布図 (°C)



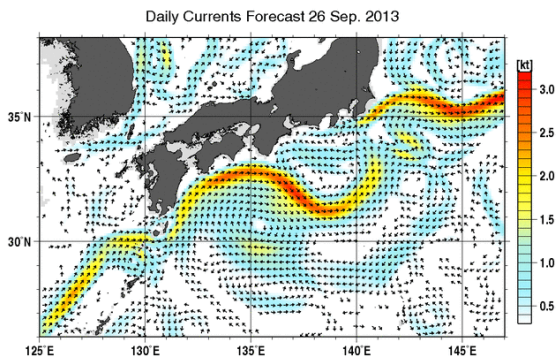
予測：8月31日

図 3-1 深さ 50m の海流分布図 (ノット)



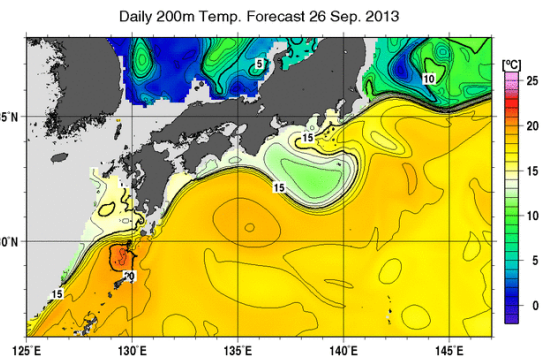
予測：8月31日

図 3-2 深さ 200m の水温分布図 (°C)



予測：9月26日

図 4-1 深さ 50m の海流分布図 (ノット)



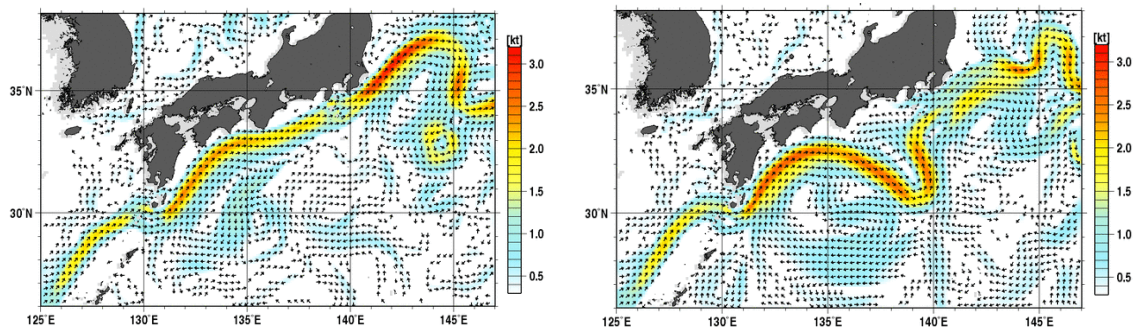
予測：9月26日

図 4-2 深さ 200m の水温分布図 (°C)

黒潮について

【黒潮】

黒潮は、東シナ海を北上して九州と奄美大島の中のトカラ海峡から太平洋に入り、日本の南岸に沿って流れ、房総半島沖を東に流れる海流です。流速は速いところでは4ノット(2m/s)以上に達し、その強い流れは幅100kmにも及びます。以下に本州南岸を流れる黒潮の代表的な流路(非大蛇行流路・大蛇行流路)を示します。



本州南岸の代表的な黒潮流路(左:非大蛇行流路、右:大蛇行流路)

【黒潮流路の変動による社会的影響】

水産業、海運業

黒潮流路の変動に伴い、強い流れの位置が変化するため、船舶の経済運航コースを左右します。

また、黒潮が大きく離岸すると、黒潮と本州南岸の間に海洋下層の冷たい水が湧き上がって海洋表層に冷水域が発生し、カツオなどの回遊魚などの漁場の位置に影響を与えます。

沿岸の潮位

黒潮が大きく離岸して冷水域が発生すると、冷水域の周りで反時計回りの流れが生じ、東海から関東地方沿岸で潮位が上昇します。1年で最も潮位が高くなる夏から秋に、黒潮流路の変動による潮位上昇が重なると、沿岸の低地では浸水などの被害が生じる可能性があります。台風や低気圧が接近した場合は、さらに潮位が高くなりますので、より一層の注意が必要です。

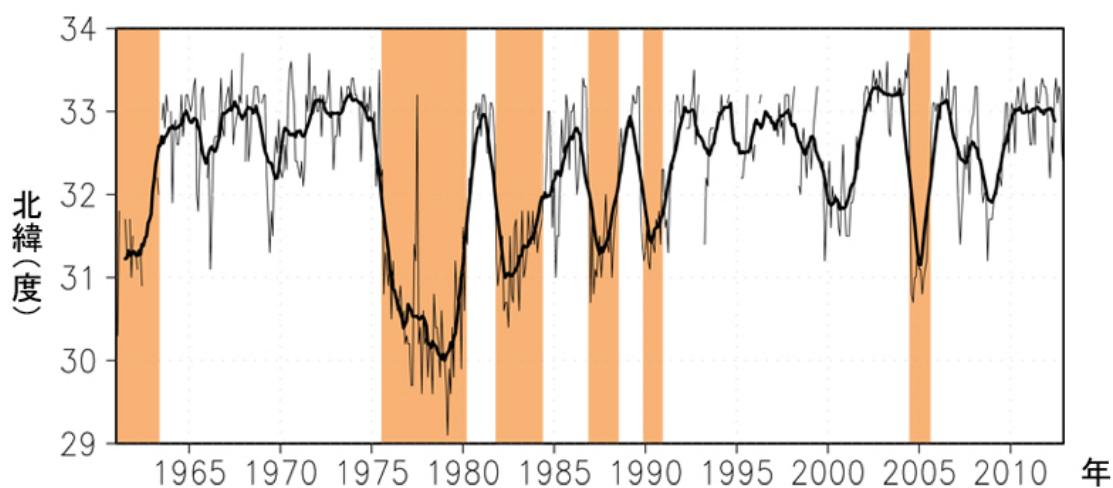
【黒潮大蛇行】

本州南方における黒潮の流路は、非大蛇行流路と大蛇行流路の2種類に大別でき、どちらの流路も比較的安定した流路で、いったんその流路で安定するとしばらくの間、持続します。気象庁では、以下の2つの条件を共に満たした場合に大蛇行と判定しています。

- ・ 潮岬で黒潮が離岸した状態で安定していること
- ・ 東海沖で黒潮流軸が北緯 32 度より南に位置していること

1965 年以降の黒潮大蛇行の状況 (2013 年 8 月現在)

期間	継続月数	期間中の最南下緯度	最南下点の平均経度
①1975 年 8 月～1980 年 3 月	4 年 8 か月	30.0° N	137.3° E
②1981 年 11 月～1984 年 5 月	2 年 7 か月	31.0° N	138.7° E
③1986 年 12 月～1988 年 7 月	1 年 8 か月	31.3° N	138.3° E
④1989 年 12 月～1990 年 12 月	1 年 1 か月	31.6° N	138.3° E
⑤2004 年 7 月～2005 年 8 月	1 年 2 か月	31.3° N	138.1° E



黒潮流軸の東海沖における最南下緯度

細線は月々の値、太線は 13 か月移動平均値。薄赤色は黒潮大蛇行の期間を示す。